

氏名	中川 尚久
授与した学位	博士
専攻分野の名称	博士 (保健学)
学位授与番号	博乙第4449号
学位授与の日付	平成27年 9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文の題目	Reactivity of CA19-9 and CA125 in Histological Subtypes of Epithelial Ovarian Tumors and Ovarian Endometriosis (卵巣子宮内膜症と上皮性卵巣腫瘍の組織学的サブタイプにおけるCA19-9とCA125の反応性)
論文審査委員	池田 敏 教授、 横田 憲治 教授、 石川 哲也 准教授

### 学位論文内容の要旨

卵巣類内膜腺癌や卵巣明細胞腺癌の一部は卵巣子宮内膜症 (OE) から発生することが報告されており、内頸部様粘液性境界悪性腫瘍も OE との関連が示唆されている。本研究では OE と上皮性卵巣腫瘍 (EOT) において、進行期分類および組織学的サブタイプ分類と血清 CA19-9 および CA125 濃度の関連性を明らかにし、術前診断の有用性について検討した。対象は病理組織診断により OE もしくは EOT と診断された 195 例であり、健常女性 113 例を比較対照とした計 308 例による症例対象研究である。OE と EOT における血清 CA19-9 と CA125 測定は OE と漿液性腺癌の判別に有用であることが示されたが、他の EOT とは差を認めなかった。一方、血清 CA19-9 は OE と I 期粘液性境界悪性卵巣腫瘍における間質浸潤の有無において術前評価の 1 つとして有用であった。それに加え、I 期粘液性境界悪性卵巣腫瘍における白血球の間質浸潤は前癌病変、炎症性発癌過程における癌性糖鎖不全との関連性が示唆された。

### 論文審査結果の要旨

本論文は、卵巣子宮内膜症 (OE) と上皮性卵巣腫瘍の鑑別に関して、CA19-9 と CA125 の術前診断マーカーとしての有用性について検討したものである。上皮性卵巣腫瘍については、組織学的サブタイプおよび進行度分類別に検討した。

健常対照例との比較では、CA19-9、CA125 は OE、粘液性境界悪性腫瘍、悪性腫瘍例で有意に高値であった。OE と悪性腫瘍の比較では、CA19-9 は漿液性腺癌例で有意に低値、CA125 は漿液性腺癌例で有意に高値であった。

病期の検討では、CA19-9 は OE 例に比し III 期漿液性腺癌例で有意に低値、CA125 は III 期漿液性腺癌例で有意に高値であった。間質への細胞浸潤をみると、I 期の粘液性境界悪性腫瘍で間質に白血球浸潤を認める例では、OE に比し CA19-9 が有意に高値を示し、白血球浸潤を認めない例では有意に低値であった。I 期の悪性腫瘍例では、OE 例と比較して CA19-9 値に差は認めなかったものの、CA19-9 がカットオフ値以上を示した 10 例中 9 例で、間質に著明な癌細胞の浸潤が認められた。

CA19-9 と CA125 の測定は、OE と漿液性腺癌の判別に有用であり、また、CA19-9 は I 期の粘液性境界悪性腫瘍における間質への細胞浸潤の有無の判別に有用で、術前評価に役立つことが示された。これらは価値ある業績と考えられる。

よって、本研究者は保健学博士の学位を得る資格があると認める。